

明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 第2回 里地里山保全利活用専門部会
議事要旨

- 1 開催日時：平成30年2月21日（水）15:00～16:10
- 2 開催場所：緑農会館
- 3 出席者：[座長] 佐倉特任教授
[部会員] 立川委員、野島委員、越畑委員、梅沢委員、米津委員、地引委員、
古山委員（代理：石黒氏）、山中委員、井野委員（代理：古屋氏）
[事務局] 川崎市建設緑政局緑政部みどりの協働推進課 荏澤課長、緒方係
長、遠藤主任
コンサルタント（(株)UR リンケージ 會田）

4 議事

(1) 平成29年度の取り組み（結果報告）

《主な意見》

全般的な意見

- ①各イベントでは昨年度からのリピーターについては、竹行燈イベントはいなかったが、保全活動イベントは数名いた。

竹行燈づくりについて

- ①参加者が少ないのが課題である。地元としては参加者が多くなっても対応ができるので、もっと募集しても良い。今後は子どもだけにこだわらず、保護者向けにも実施してはどうか。募集方法に工夫が必要だ。
- ②取り組みの1年目ははるひ野小中学校を対象にし、去年は柿生地区まで拡大し、今年は麻生区内全域にまで拡大した。来年は全市的な広報も検討してみる。対象者について中学生はターゲットにはならないのではないかと。小学校3～4年生の募集については竹行燈の会と検討していく。
- ③竹行燈の会の会員数は発足当初は15人程度であったが、現在は23人程度に増えている。最近では若い世代や女性の会員も参加している。
- ④イベントの告知は市のホームページでの募集のほか、市のイベントアプリを活用している。しかし、高学年や中学生は塾や受験勉強などで時間がないので、低学年を対象にした方が反応は良いのではないかと。募集学年については今後も検討が必要だろう。

保全活動イベントについて

- ①成果が目に見えてわかるのが満足度が高い要因ではないかと。
- ②作業を実施したことで展望が良くなり、地域の人からも評判が良い。
- ③イベントを行う時期は春になると萌芽する植物を選別しながら刈らなくてはならないので、作業がしやすい2月頃が良い。
- ④作業の間の休憩中に季節の見どころを写真で見せられると、作業のやる気や地域

の愛着が湧くので今度はキンランが咲くころに写真を撮っておく。

- ⑤保全活動により、5月頃にキンランも自生していると聞いている。
- ⑥去年の成果など活動前後の写真があると次回の募集に繋がられると思うが、募集する際のジレンマとして、見どころをアナウンスしすぎるとかえって訪れる人が増えてしまう。貴重な生きものを盗掘される恐れがあり、募集の仕方が難しい。

(2) 平成30年度の実施計画(案)について

《主な意見》

- ①来年度が3か年計画の最終年になるので、来年度までは今回の2つのイベントを継続して行う。当初は計画を立てながら試行してきたが、現在は大分形として成果が出てきているので、これらを踏まえて次回の体制や新たなイベントなどを検討していくところである。一方で、引き続き同じ形で実施できるかが不安もある。
- ②募集の工夫をしても参加者が増えていない点がある。参加者が多くなっても対応はできるので、一度思い切って募集して対応の仕方を経験しても良いのではないか。
- ③部会のイベントとして新たなイベントの考える必要もあり、次期の計画を立てる際にはイベントの内容について検討が必要だろう。
- ④県でも他の地区で里山イベントが行われているので、情報提供も可能である。
- ⑤年明けに汗守神社に竹行燈を展示しているが、区役所で展示できないか検討して欲しい。宣伝効果があって良いのではないか。
- ⑥これまでのイベントを成長させていく面と新たなイベントの実施の検討が必要だが、竹行燈の会だけで様々なイベントに対応するのは難しいので、新たなグループもできると良い。
- ⑦30年度は3か年計画の最終年になるので大々的に募集を行い、その上で募集人数が増えた場合は抽選を行うなどの検討をすればよい。

(3) その他：マップの試行について

《主な意見》

- ①地域活性化部会ではルートマップとサインの検討・試行を行っている。アートイベントではスタート場所がはるひ野駅からだったので、黒川駅からはるひ野駅に向かう人は迷っている人が多かった。サインの数も少ないので、もう少し設置しても良い。
- ②ルートをわかりやすいと答えた人とそうでない人がいた。両方向から来る人もわかるように、コースによって矢印はそれぞれ違った色で示しても良い。サインは恒常的な設置ではなく、イベントの時期に合わせた形で設置していく。

以上